Ⅰ　研究方針

国や道の森林･林業･木材産業に関する施策

国が令和３年６月に改定した「森林・林業基本計画」では、林業・木材産業の持続性向上と成長発展を図り、これを通じて森林の多面的機能を発揮させることで、社会経済生活の向上とカーボンニュートラルへの寄与を果たすことを基本方針として、「森林資源の適正な管理・利用」「林業イノベーションの展開」「木材産業の競争力強化」「都市等における“第２の森林”づくり」等の施策が展開されています。

また北海道では、百年先を見据えた森林づくりを進めるための「北海道森林づくり基本計画」が、令和４年３月に改定されました。この計画では、森林資源の循環利用と木育の２項目を一層推進していくことが施策の基本となっています。その上で、本道の林業・木材産業が直面する課題を解決するために、「ゼロカーボン北海道の実現に向けた活力ある森林づくり」「広葉樹資源の育成・有効利用」「道産トドマツ建築材の安定供給体制の強化」「スマート林業による効率的な施業の推進」「HOKKAIDO WOOD ブランドの浸透による道産木材の需要拡大」等の７つの重点的な取り組みが実施されています。

林業試験場の研究方針

林業試験場では、地方独立行政法人北海道立総合研究機構（以下、道総研）が策定する第４期中期計画に基づき、以下の２つの推進方向、３つの項目（◎で示す２つの推進方向と①～③の項目）に沿って研究を進めています。

◎ 森林資源の循環利用による林業及び木材産業の健全な発展

①「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組を推進する林業技術及び木材産業技術の開発

②将来を見据えた林業技術の開発

◎ 森林の多面的機能の持続的な発揮

③森林の多面的機能発揮と有用樹木・特用林産物の活用のための研究開発